

### 菊池川流域装飾古墳群

全国に四百八十基ほどある装飾古墳。その約四割が熊本県に分布する。さらに全国の約四分の一、百二十二基が菊池川流域に集中している。なぜ、熊本県の、それも菊池川流域に、こんなにも分布するのか…。そこに描かれる同心円文、三角文など、この一帯に多く見られる幾何学文様は何を意味するのか…。古代日本、四世紀から七世紀の古墳時代に、鮮やかな光を放つ装飾古墳の謎を追ってみた。



岩原横穴墓群。第16号横穴墓の舟形の屍床には珍しい「櫓べそ」(舟の櫓を受ける突起)がある。



弁慶方古墳。ゴンドラ形の舟に馬が乗せられているのが分かる。



チブサン古墳。正面の丸い文様が乳房に見えることから、古く乳の神として信仰されてきた。



鍋田横穴墓群第27号横穴墓。横穴の入口に墳墓を守るかのように両手を左右に広げた人物像、弓、矢などが彫られている。



石貫穴観音横穴墓群。3つの大きな横穴が並び、中央の穴には、他に例のない手観音像のレリーフがある。



石貫ナギノ横穴墓群第7号横穴墓。アーチ型の入り口には、鮮やかな同心円や三角文などが描かれている。



大坊古墳。赤と群青色の三角文様は、現代アートとみまがう素晴らしさ。



▼「たまぎなの里」に、歴史の証、古墳が息づく  
断崖にぽっかり開いた穴。恐る恐る入つてみると、観音像のレリーフが。土地の人々の驚きは、やがて信仰に変わる…。土地の人から「穴観音」と呼ばれる玉名市の石貫穴観音横穴墓群だ。菊池川が有明海に注ぐところ、玉名市は、古く「日本書紀」に「玉杵名の里」の名で登場する歴史ある町。「小岱山ふるさと自然公園」として親しまれる小岱山麓に続く台地に、歴史の証、数々の古墳群が広がる。

穴観音と同じ玉名市大字石貫にある石貫ナギノ横穴墓群。長さ二百メートルの断崖に、横穴墓が四十五基並ぶ。穴の入り口にくつきりと描かれた赤い円。丁寧に回ると、刀なども描かれているのが分かる。

▼大きな石人が古代の王者の墓を今も見守る  
菊池川を少しさかのぼる。玉名市から車で十分の清原台地。江田船山古墳や塚坊主古墳、歴史民俗史料館などが陣取る。装飾古墳ではないが、江田船山古墳の出土品には国宝級がズラリと並ぶ。金の耳飾り、冠、日本最古の漢字が刻まれた大刀…。大陸文化の影響を受けたらしい古代の王者が、この地にいたのだ。彼はここで、今と同じ鮮やかな目を見たのだろうか。

▼柔らかな阿蘇凝灰岩が多くの横穴墓群を生んだ  
熊本県の装飾古墳に多いのは、文様では幾何学文様。形では、横穴墓。横穴は幾何学文様、形では、横穴墓。横穴

▼北方と南方文化の交差点！  
装飾古墳館から北へ4キロ、山鹿市の弁慶方古墳には舟が鮮やかに描かれている。一隻の赤いゴンドラ形の舟。

墓は、自然の丘陵の斜面を横から掘つたもの。柔らかな加工しやすさ、阿蘇凝灰岩の賜物だ。特に、穴の入り口に彩色したりレリーフを施した装飾横穴墓は、菊池川流域のほか、球磨川上流などにあるだけ。  
鹿央町の岩原台地北側に広がる、岩原横穴墓群。木立ちに囲まれた真つ暗な穴をのぞく。千三百年前の死者が蘇りそつで、少し怖い。パキッ、鳥か、小枝を踏みしだく音に、思わず後ずさりする。大小無数の穴の中には、舟をかたどった屍床(死体を安置する場所)もある。舟の絵やレリーフが多いのも、菊池川流域の特徴。この舟形が大切なことを語っているのを知るのは、さらに古墳をめぐる旅をした後だった。  
▼死者の傍らの幾何学文様は何を語る…  
ライトアップに浮かび上がる、装飾古墳の赤い幾何学文様。死者の傍らに描かれたそれらは、美しくもどこか妖しげだ。岩原古墳群のすぐそばにある、県立装飾古墳館。ここには、県内十二カ所の装飾古墳のレプリカを展示。中には、文様の退色を防ぐため直接見学できず、このレプリカでしか見ることのできないものもある。  
特に目に付くのが、三角文や同心円文(二重、三重の円)、さらに嘉島町の井寺古墳などに代表される直弧文(直線と弧を組み合わせた文様)など、幾何学文様。  
直弧文は、結び目を表し、死者を封じ込めるまじないだ、円は太陽だ、と

一方には棺と鳥。古来、鳥は死者の魂を運ぶと信じられてきた。しかし、舟に死者を乗せて流す「舟葬」は、ミクロネシア、ポリネシアなどの風習だとか。舟形の屍床や舟の絵のある、岩原横穴墓群やこの弁慶方古墳。それは、当時、この地が南方の影響を受けていたことを伝えている。  
弁慶方古墳にはまた、十一頭の馬も描かれている。馬は北方騎馬民族にとつてなくてはならないもの。これは、農耕民族とされる私たちの先祖と大陸との間に、交渉があったことをうかがわせる絵だ。  
北方の、騎馬民族を思わせる馬の絵と南方から来た風習。私たちの先祖は、北と南の文化の交差点に生きていたようだ。この南北の文化は、やがて東へと伝わったのかもしれない。大いなる菊池の流れは、古代から文化を運んでいた。  
私たちの先祖を知る手掛かりが秘められている装飾古墳だが、その謎はまだ多い。しかし、数多くの古墳群は、二つの違う文化を融合して脈々と今に伝えてきた人々が確かにいたと、私たちに教えてくれる。

## 北から南から、文化がスクランブルする、大いなる菊池の流れ。

### D A T A

■肥後古代の森  
文化庁の「風土記の丘」構想に沿った大規模歴史公園。「風土記の丘」構想は、日本最古の地誌「風土記」にちなんだもので、日本各地に美しい風土を残していることというもの。熊本県では、装飾古墳が集中する菊池川流域の山鹿市、鹿央町、菊水町を「肥後古代の森」に指定し、史跡の整備を行ってきた。今年度中に事業は完了する。



■肥後古代の森・山鹿地区  
山鹿市にはチブサン古墳、弁慶方古墳、鍋田横穴墓群など個性豊かな古墳が多い。中心は山鹿市立博物館。周辺の「古代への道」「古墳の森」などでは、方形周溝墓等が整備され、各種の石棺や埴輪も屋外展示されている。

■肥後古代の森・鹿央地区  
肥後古代の森の中核施設で全国唯一の装飾古墳博物館、県立装飾古墳館がある。県内最大規模の前方後円墳を持つ岩原古墳群が、装飾古墳館の横にバランスよく位置し、台地の北側には、岩原横穴墓群が無数の口を開けている。

■肥後古代の森・菊水地区  
清原台地にある江田船山古墳、塚坊主古墳などを整備。「石人の丘」「縄文のむら」「肥後民家村」「菊水町立歴史民俗史料館」などもあり、多彩に「歴史」が楽しめる。

■見学可能な装飾古墳  
装飾古墳は、文様の保存のため見学できない所もあるが、墳丘を持つ装飾古墳でも次のものは見学が可能だ。

- ◎永安寺東・西古墳  
東古墳は、事前に玉名市教育委員会(0968-75-1312)に申し出が必要。
- ◎大坊古墳  
年に1度、10月の第3土曜、日曜に公開される。
- ◎塚坊主古墳  
事前に菊池市教育委員会(0968-86-3131)に申し出が必要。
- ◎横山古墳(移転復元)  
常時公開。
- ◎チブサン古墳  
事前に山鹿市立博物館(0968-43-1145)に申し出が必要。
- ◎オプサン古墳  
常時公開。
- ◎御霊塚古墳  
事前に鹿本町教育委員会(0968-46-4270)に申し出が必要。
- ◎袈裟尾高塚古墳  
事前に菊池市教育委員会(0968-25-1672)に申し出が必要。

(参考)トンカラリン  
菊水町にある石組みの地下トンネルやU字溝。全長約460mあまり。水路説、城の抜け穴説など諸説ある。ほかに古代の遺跡もあり、古代へのロマンをかきたてる。